

Ⅲ. 研究

8. 邦文誌編集委員会

委員長 波多野 悦 朗

1. 邦文誌（日本外科学会雑誌）について

日本外科学会雑誌は、年間6巻（通常号6巻）を発行している。その編集作業のため邦文誌編集委員会を6カ月に1度程度開催している。

また、令和7（2025）年3月までに第126巻第2号を会員に配本した。

2. 概要について

・ 通常号

- 1) 発行は、隔月（奇数月）とする。
- 2) 頁数は、基本的に1号あたり150頁程度とする。
- 3) 配本は、平成29（2017）年の第118巻より希望制を開始している。
- 4) 定価は、1冊あたり990円（税込）とする。

・ Online Journal

- 1) 令和2（2020）年度より、論文以外の有料会告・集談会記事等（企業広告、外科専門医試験問題解説を除く）も公開している。なお、第121巻より会員、非会員問わず閲覧できるようにしている。ただし、最新巻は会員のみ閲覧できることとする。

・ 年間購読料（非会員向け）

- 1) 臨時増刊号「定期学術集会日程号」の発行取り止めに伴い、令和2（2020）年の年間購読料（全6冊）から5,720円（税込）に引き下げた。

・ 臨時増刊号

- 1) 「定期学術集会日程号」は、令和2（2020）年より発行を取り止めた。

3. リニューアルについて

令和6（2024）年の第125巻第1号より、全頁をフルカラー化すると共に、一部の企画をリニューアルした。

4. 掲載企画について

・ 依頼原稿

- 1) Editorial（編集委員による）
- 2) 会員へのメッセージ（各委員会の委員長から会員へ、委員会の現状や課題をテーマとした企画）
- 3) 先達に聞く（名誉会長や名誉会頭、名誉会員、特別会員、各編集委員・幹事の恩師などからの若手外科医に対する助言や過去の経験談をテーマとした企画）
- 4) 誰もが輝ける外科の未来へ（外科医の働き方や、若手・女性外科医の活躍や育成、シニアキャリアな

どをテーマとした企画)

- 5) 特集 (編集委員による, 主に各専門領域をテーマとした企画)
- 6) 会員のための企画 (編集幹事による, 会員に役立つような内容をテーマとした企画)
- 7) 医療訴訟事例から学ぶ (弁護士の立場から過去の医療訴訟事例を解説した企画)
- 8) 手術の tips and pitfalls (編集幹事による, 図を中心とした手術の工夫やコツをテーマとした企画)
- 9) 講演の記録 (定期学術集会「特別企画」の記録を掲載する企画)
- 10) 特別寄稿 (編集委員・幹事による臨時の企画)

・一般投稿論文

- 1) 論文種別は、『会員からの寄稿』『誰もが輝ける外科の未来へ』のみとする。
- 2) 投稿規定は、以下の通りとする。

【会員からの寄稿】

原稿字数 4,000 字以内 (4 頁以内)

1. 図表・写真は、1 点につき原稿 400 字相当として換算し、原稿字数内に含める (4 点以内)。
2. 内容要旨・英文抄録・索引用語の字数は、原稿字数内に含める。
3. タイトル頁に題名、所属機関名、氏名の英語表記をつける。

【誰もが輝ける外科の未来へ】

原稿字数 2,400 字以内 (2 頁以内)

キーワード：五語以内 (必須)

見出し：内容要旨 I. はじめに・・・★. おわりに とする。

1. 図表・写真は、1 点につき原稿 400 字相当として換算し、原稿字数内に含める。
2. 内容要旨・英文抄録・索引用語の字数は、原稿字数内に含める。
3. タイトル頁に題名、所属機関名、氏名の英語表記をつける。

・その他

- 1) 集談会記事 (抄録は除く) を無料で受け付けている。
- 2) 理事会ニュース等の会告は、本会ホームページでの公開に一本化している。なお、必要と認められた会告については随時掲載することとしている。

5. 執筆料 (謝金), 掲載料について

財務委員会と検討し、平成 30 (2018) 年度より以下のとおりとしている。(全て税込)

・執筆料 (謝金)

- 1) 会員は無料, 非会員は 30,000 円。

・掲載料

- 1) 「会員からの寄稿」は、33,000 円 (4 頁以内), 「誰もが輝ける外科の未来へ」は、16,500 円 (2 頁以内)。どちらも超過分は 1 頁毎に 16,500 円。
- 2) 有料会告 (会告・学会案内・地方会案内など) は、22,000 円。

6. その他について

・配本希望制

- 1) 配本，送料にあたっての会費以外の料金徴収はしない。
- 2) 配本を希望しない場合でも，会員は Online Journal より閲覧が可能である。
- 3) 配本希望の申し出を受けた場合は，改めて配本中止の申し出があるまで，継続して配本する。
- 4) 途中で配本中止の申し出を受けた場合は，原則として翌年発行の巻から配本中止とする（当該年の第 6 号までは配本する）。
- 5) 配本を希望しなかった場合も，改めて配本希望の申し出があれば，その翌年発行の巻から配本する。

・「医療訴訟事例から学ぶ」の書籍販売

第 104 巻第 6 号（平成 15/2003 年発行）から第 116 巻第 6 号（平成 27/2015 年発行）までに掲載した 87 事例から 47 事例を抜粋し，平成 28（2016）年 4 月から書籍（電子書籍を含む）として販売している。

なお，販売は全て出版社である株式会社杏林舎に委託している。

・転載許諾

- 1) 審査については，委員会にて定めた以下の規定に従い，原則委員長判断により許諾を判断する。規定外の申請については委員会にて審議し，決定する。

①転載先が下記のいずれかであること。

- ・学術・教育活動（論文，学会発表，業績集等を含む）
- ・医療関連企業等の印刷物・ウェブサイト等
- ・出版社等の印刷物・ウェブサイト等
- ・その他（委員会で認められたもの）

②転載点数が，1 論文あたり原則として 3 点以内であること。

③修正がないこと。（原則的に図表を含めて修正は認めていない。）

④「日本外科学会雑誌第〇巻第〇号（〇年）より転載」の一文が明記されていること。

その他の事項は，STM 出版ガイドラインに準ずる。

- 2) 転載料については，徴収することとし，転載料は以下のとおりとする。

種 別	転載料
1) 学術・教育活動（論文，学会発表，業績集等を含む）	無料
2) 医療関連企業等の印刷物・ウェブサイト等	55,000 円（媒体ごとに徴収）
3) 出版社等の印刷物・ウェブサイト等	55,000 円（媒体ごとに徴収）
4) その他（委員会で認められたもの）	原則，55,000 円

※税込とする。

※出版物で 5,000 部を超過する場合は，1,000 部追加ごとに 5,500 円（税込）徴収する（2022 年 9 月 12 日より）。

ただし，ウェブサイトについては閲覧数等を問わないこととする。

・過去の日本外科学会雑誌の Online Journal 化

会員の学術的な利便性を高めるため，日本外科学会雑誌の印刷業等の委託業者である大村印刷株式会社と協力しながら，過去の第 1 巻（明治 33/1900 年）から第 105 巻（平成 16/2004 年）までも閲覧できるよう準備を進めている。なお，過去の論文は個人情報が入っているものがあるため，Online Journal のセキュリティを強化，検索機能の強化を行った。現時点では，第 36 巻（昭和 10/1935 年）発刊の以降の全文が閲覧でき，準備が整い次第順次遡って公開していく予定である。

- ・複製権委託
一般社団法人学術著作権協会には、冊子版、ならびに電子版の複製権を管理委託している。
- ・出版物の寄贈
国立国会図書館に、冊子版のみ納入している。

9. 英文誌編集委員会

委員長 吉 住 朋 晴

1. 英文誌 (Surgery Today) について

本誌は、年間12冊、電子ジャーナルを含めて約40,000部を発行している。令和6(2024)年中に779編の投稿があった。同年発行の第54巻には195編が掲載され、令和6(2024)年の採用率は26.2%であった。

平成23(2011)年11月よりOnline Firstでの出版を開始している。Online Firstの出版により号の出版を待たずに論文ごとの電子版の出版が可能となり、入稿から掲載までの期間は約1カ月となっている。Online Firstに掲載された論文は、電子版出版は正式な出版と認められておりDOI (Digital Object Identifier) のコードにより、頁なしでも引用可能である。令和6(2024)年のOnline Firstの出版による論文数は、Original: 163編、How To Do It: 8編、Review Article: 4編、Short Communication: 8編、Others: 11編となっている。

2. Surgery Today Table of Contents について

平成28(2016)年2月よりSpringer Nature社へ会員のメールアドレスを提供しており、オプト・アウト方式で会員各位に毎月配信を行っている。

3. Impact Factor について

令和5(2023)年のImpact Factor (IF) は、小数点第1位までの表記となり、1.7となった。

4. 優秀論文賞 (Best Surgery Today Award) について

令和5(2023)年に掲載された論文 (vol. 53) を対象として、一般・小児、消化管 (上部・下部)、呼吸器、乳腺・甲状腺、心臓血管、肝胆膵・移植の7分野で授賞者を決定した (88~89頁)。

5. Citation Award について

令和6(2024)年のCitation Awardとして6名の授賞者を決定した (89~90頁)。

6. 契約について

出版委託業者のSpringer Nature社との現在の契約は令和8(2026)年12月末までなので、その間に競合他社との相見積などによって選定作業を行うこととした。

7. その他

IF向上の一環としてSurgery Today Vol. 52-54の論文リストを引用して頂くよう分野別リストを作成して編集委員に配布した。



Surgery Today

ScholarOne Manuscripts™ 論文投稿・審査状況報告

2024 年 12 月 31 日現在

1. 論文種類別 投稿数（投稿日による集計）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
Case Report	753	409	2									
Clinical Original	465	423	485	511	474	579	533	758	648	586	559	581
Experimental Original	56	56	65	51	48	66	55	76	66	53	47	61
How To Do It	38	48	50	55	49	52	63	98	60	60	39	49
Invited Review Article	8	11	8	12	5	9	13	9	2	2		
Letter to the Editor	9	13	4	9	15	7	9	12	6	17	10	18
Other	3	19	12									
Review Article	47	50	62	45	39	54	74	107	74	75	55	50
Short Communication	15	30	49	27	26	34	22	63	24	30	31	20
総計	1394	1059	737	710	656	801	769	1123	880	823	741	779
月平均	116	88	61	59	55	67	66	94	73	69	62	65

※ 取り下げられた論文（Withdrawn）は含まない

2. 論文種類別 判定結果と採択率（最終判定日による集計）

	2022			2023			2024		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Case Report									
Clinical Original	127	464	21.5%	115	427	21.2%	160	395	28.8%
Experimental Original	10	48	17.2%	4	41	8.9%	9	50	15.3%
How To Do It	6	53	10.2%	8	34	19.0%	7	40	14.9%
Invited Review Article	2		100.0%						
Letter to the Editor	11	6	64.7%	4	5	44.4%	7	10	41.2%
Review Article	11	65	14.5%	6	46	11.5%	5	44	10.2%
Short Communication	4	23	14.8%	8	23	25.8%	7	11	38.9%
総計	171	659	20.6%	145	576	20.1%	195	550	26.2%

3. 地域別 投稿数（投稿日による集計）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
Africa	9	11	16	14	8	12	12	21	14	12	19	18
Americas	43	42	21	22	15	19	8	36	27	19	11	17
Asia	483	402	207	206	170	266	260	407	309	356	295	308
Europe	259	172	136	104	112	125	122	149	98	71	45	37
Japan	596	430	355	363	350	378	344	505	429	364	370	394
Oceania	4	2	2	1	1	1	3	5	3	1	1	5
総計	1394	1059	737	710	656	801	769	1123	880	823	741	779

4. 地域別 判定結果（最終判定日による集計）

	2022			2023			2024		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Africa		12	0.0%	1	19	5.0%		16	0.0%
Americas	2	16	11.1%	4	8	33.3%	1	15	6.3%
Asia	23	337	6.4%	9	278	3.1%	22	274	7.4%
Europe	10	64	13.5%	4	41	8.9%	2	37	5.1%
Japan	136	229	37.3%	127	229	35.7%	170	203	45.6%
Oceania		1	0.0%		1	0.0%		5	0.0%
総計	171	659	20.6%	145	576	20.1%	195	550	26.2%

5. カテゴリー別 判定結果（最終判定日による集計）

	2022			2023			2024		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Adrenal gland		1	0.0%		1	0.0%		1	0.0%
Clinical Original		1	0.0%		1	0.0%			
Experimental Original								1	0.0%
Anus	1	2	33.3%		7	0.0%	1	5	16.7%
Clinical Original	1	1	50.0%		5	0.0%	1	3	25.0%
Experimental Original		1	0.0%		2			2	0.0%
Bile ducts/Gall bladder	5	26	16.1%	2	28	6.7%	6	18	25.0%
Clinical Original	5	24	17.2%	2	27	6.9%	6	16	27.3%
Experimental Original		2	0.0%		1	0.0%		2	0.0%
Breast	3	19	13.6%	3	13	18.8%	6	16	27.3%
Clinical Original	3	19	13.6%	3	11	21.4%	6	16	27.3%
Experimental Original					2	0.0%			
Cardiovascular	6	24	20.0%	8	29	21.6%	4	14	22.2%
Clinical Original	5	21	19.2%	8	27	22.9%	3	12	20.0%
Experimental Original	1	3	25.0%		2	0.0%	1	2	33.3%
Colon/Rectum	33	102	24.4%	17	84	16.8%	42	73	36.5%
Clinical Original	32	92	25.8%	16	83	16.2%	38	68	35.8%
Experimental Original	1	10	9.1%	1	1	50.0%	4	5	44.4%
Esophagus	9	20	31.0%	5	21	19.2%	8	20	28.6%
Clinical Original	8	20	28.6%	5	19	20.8%	8	18	30.8%
Experimental Original	1		100.0%		2	0.0%		2	0.0%
Liver	5	35	12.5%	6	32	15.8%	14	30	31.8%
Clinical Original	4	33	10.8%	6	29	17.1%	14	29	32.6%
Experimental Original	1	2	33.3%		3	0.0%		1	0.0%
Lung/Mediastinum	17	51	25.0%	30	38	44.1%	33	43	43.4%
Clinical Original	17	47	26.6%	30	33	47.6%	33	41	44.6%
Experimental Original		4	0.0%		5	0.0%		2	0.0%

	2022			2023			2024		
	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率	Accept	Reject	採択率
Others	14	69	16.9%	15	66	18.5%	10	46	17.9%
Clinical Original	10	56	15.2%	14	53	20.9%	7	36	16.3%
Experimental Original	4	13	23.5%	1	13	7.1%	3	10	23.1%
Pancreas	4	31	11.4%	5	37	11.9%	8	29	21.6%
Clinical Original	4	29	12.1%	5	35	12.5%	8	29	21.6%
Experimental Original		2	0.0%		2	0.0%			
Pediatric surgery	5	23	17.9%	10	14	41.7%	7	15	31.8%
Clinical Original	5	21	19.2%	10	14	41.7%	6	12	33.3%
Experimental Original		2	0.0%				1	3	25.0%
Plastic surgery		14	0.0%		16	0.0%		8	0.0%
Clinical Original		12	0.0%		14	0.0%		5	0.0%
Experimental Original		2	0.0%		2	0.0%		3	0.0%
Portal hypertension		3	0.0%		1	0.0%			
Clinical Original		3	0.0%		1	0.0%			
Experimental Original									
Stomach/Duodenum	25	60	29.4%	14	43	24.6%	22	47	31.9%
Clinical Original	24	56	30.0%	13	40	24.5%	22	42	34.4%
Experimental Original	1	4	20.0%	1	3	25.0%		5	0.0%
Thyroid/Head and neck	8	15	34.8%	1	14	6.7%	5	10	33.3%
Clinical Original	7	14	33.3%	1	14	6.7%	5	9	35.7%
Experimental Original	1	1	50.0%					1	0.0%
Vascular	2	13	13.3%	3	11	21.4%	3	5	37.5%
Clinical Original	2	11	15.4%	2	10	16.7%	3	4	42.9%
Experimental Original		2	0.0%	1	1	50.0%		1	0.0%

以上

10. Case Report 誌編集委員会

委員長 猪 股 雅 史

1. 委託業者変更について

Surgical Case Reports は、平成 27 (2015) 年 1 月 17 日に創刊し、10 年目に入ったが、出版委託業者の Springer Nature 社との契約が令和 6 (2024) 年 12 月末までだったので、令和 5 (2023) 年中にコンペティションを行って、応募のあった 3 社を客観的に評価した結果、令和 7 (2025) 年 1 月からの委託業者が国際文献社となった。

そこで、2024 年については下記のスケジュールにて移行作業を進め、支障なく国際文献社による刊行の開始となった。

- ・ Springer Nature 社の投稿査読システムでの投稿受付 (2024 年 8 月 31 日まで)
- ・ メンテナンスのため、新規投稿の受付を停止 (2024 年 9 月 1 日～30 日)
- ・ 国際文献社の新しい投稿査読システムでの投稿受付を開始 (2024 年 10 月 1 日)

2. 掲載料について

2024 年 10 月 1 日以降に国際文献社に投稿された論文の掲載料は以下のとおりに変更となった。(日本円での請求)

会員 30,000 円 (税抜) ←移行前 (Springer 社): 460€ (≒ 71,800 円)

非会員 95,000 円 (税抜) ←移行前 (Springer 社): 1,250€ (≒ 195,000 円)

3. 投稿状況について

2024 年 12 月 15 日時点での年間投稿数は 708 編となったが、Springer 社から国際文献社に審査が継続された論文の 15 編が重複してカウントされているので、その分を差し引くと、2024 年の投稿数は 693 編となった。9 月の 1 ヶ月は投稿受付休止期間だったので、その期間を含めても 700 編近い投稿があったので、かなり順調かと思われる。

また、2024 年の月別投稿数については、8 月が一番多く 86 編となり、Springer 社の投稿システムがクローズする前の駆け込み投稿が多かったことと予想される。Accept は計 215 編で、採用率については、平均値は 30% くらいになっていると見込まれる。

国別投稿数は約 7 割が日本からの投稿となっており、続いて中国、アメリカ、イランとなっている。

2024 年の Accept されるまでの日数は平均 46 日となっているため、査読もスムーズに行われていると思われる。

4. 優秀論文賞 (Best Surgical Case Reports Award) について

令和 4 (2022) 年と令和 5 (2023) 年に掲載された論文 (Vol. 8, 9) を対象として、2022 年から施行された選定条件 (前々年の論文は citation が 4 回以上、前年の論文は citation が 2 回以上とする。対象論文が多い場合は上位 50 編までを対象論文とする。Download 600 回以上) に従って、2 つの条件を充足した論文を抽出したところ、14 編のみが対象論文となった。この 14 編の領域別内訳は、上部消化管×2 編、下部消化管×1 編、肝臓×2 編、胆嚢×7 編、乳腺×1 編、および小児×1 編であったので、この 6 領域については、この中から選定することとし、該当論文のなかった心臓血管、呼吸器、および救急の 3 領域につ

いては、審議の結果、1 ランク下げた基準（2022 年：Citation 2 回以上/2023 年：Citation 1 回以上）で選定することとした。

領域毎に審査を行い、授賞者を決定した（90 頁）。

5. Impact Factor について

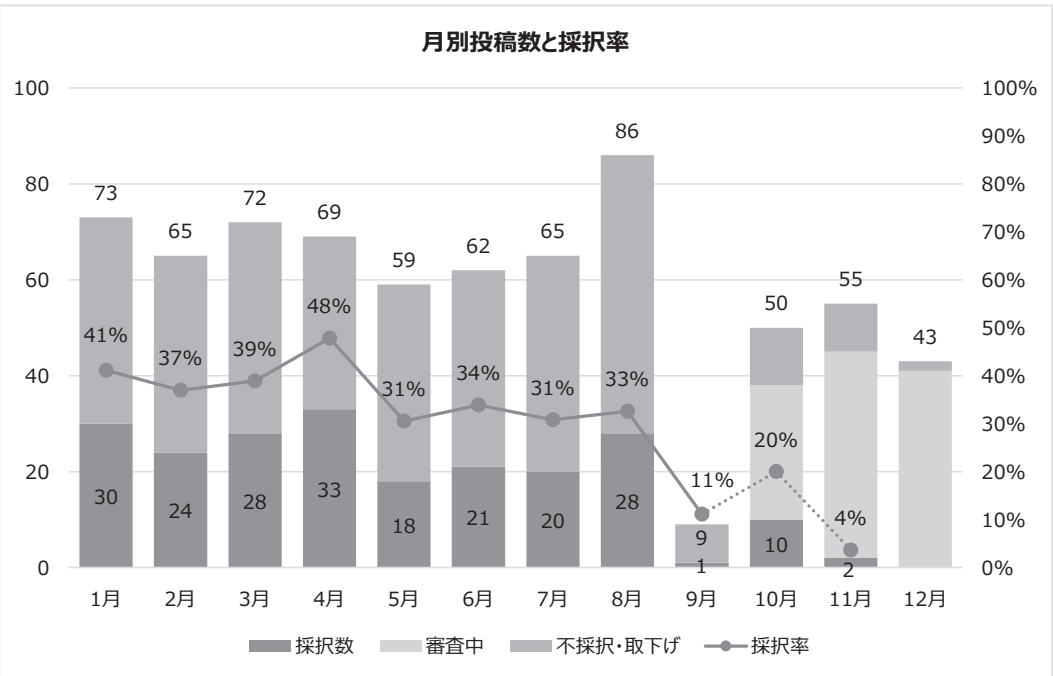
Clarivate Analytics 社の方針変更により、Web of Science の収載 journal の中でも、これまでも「Science Citation Index Expanded (SCIE)」というインデックスに登録された journal のみを Impact Factor (IF) 公表の対象としていたが、2023 年より「Emerging Source Citation Index (ESCI)」登録の journal も IF 付与の対象となった。Surgical Case Reports は ESCI に分類されており、2023 年の IF は、0.8 であった。

1. 投稿審査状況

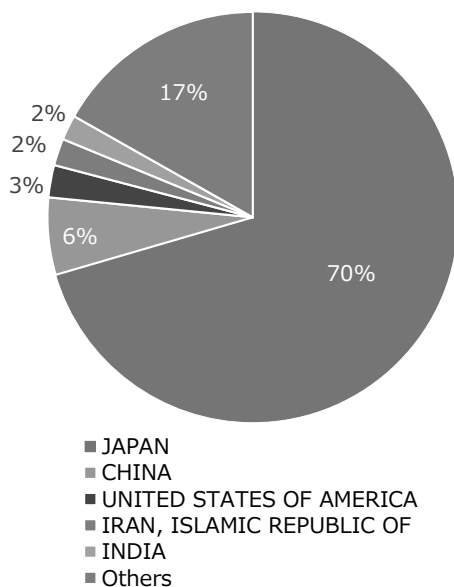
月別投稿数と審査状況（集計期間：2024年1月1日～12月15日）

投稿月	計	採択	不採択	審査中	改訂中	取下げ
1月	73	30	39	0	0	4
2月	65	24	38	0	0	3
3月	72	28	35	0	0	9
4月	69	33	30	0	0	6
5月	59	18	31	0	0	10
6月	62	21	29	0	0	12
7月	65	20	31	0	0	14
8月	86	28	39	0	0	19
9月	9	1	7	0	0	1
10月	50	10	7	15	13	5
11月	55 (12)	2	8	32	11	2
12月	43 (3)	0	0	40	1	2

括弧内は Springer からの審査継続論文



国別投稿者の割合



国名	投稿数
JAPAN	499
CHINA	43
UNITED STATES OF AMERICA	18
IRAN, ISLAMIC REPUBLIC OF	15
INDIA	14
SAUDI ARABIA	9
SPAIN	7
EGYPT	6
ITALY	5
SYRIAN ARAB REPUBLIC	5
TURKEY	5
PAKISTAN	5
GERMANY	5
QATAR	4
THAILAND	4
CAMEROON	4
Others	60

分野別投稿数

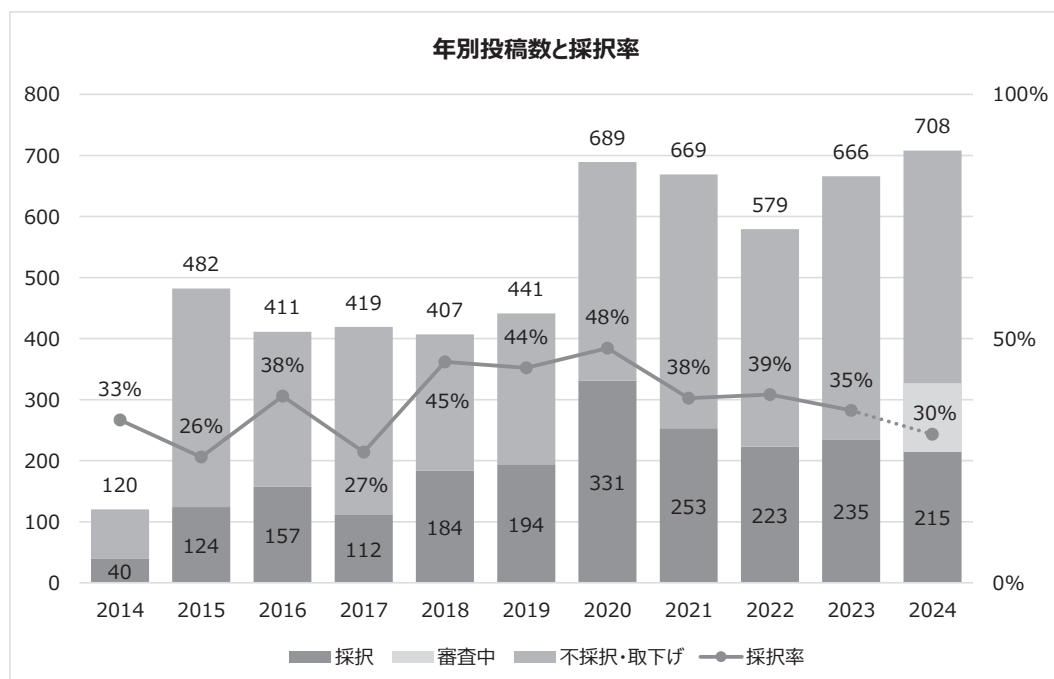
分野名	投稿数
Colon/Rectum	120
Emergency	111
Stomach/Duodenum	92
Lung/Mediastinum	71
Liver	58
Esophagus	56
Pancreas	49
Pediatric surgery	45
Cardiovascular	44
Breast	41
Bile ducts/Gall bladder	40
Vascular (peripheral/vein)	25
Anus	18
Thyroid	14
Adrenal gland	4
Portal hypertension	1

1 論文に複数の分野が付与されている場合、全て計上

平均審査日数

投稿から初回判定まで	27 日
投稿から採択まで	46 日
採択から公開まで	—

年別投稿数および採択率（集計期間：2014年1月1日～2024年12月15日）



11. 臨床研究推進委員会

委員長 宮 川 繁

1. 「日本外科学会臨床研究助成」，及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞者について

令和6年度も「日本外科学会臨床研究助成」(500万円×1件)と「若手外科医のための臨床研究助成」(100万円×5件)の募集を行い，審査した。

【日本外科学会臨床研究助成】(JSS Clinical Investigation Project Award) 授賞者 1名

5件の研究課題の申請から，1件を採択した(91頁)。

【若手外科医のための臨床研究助成】(JSS Young Researcher Award) 授賞者 5名

40件の研究課題の申請があり，申請者が申請された分野に基づき，分野毎の委員に依頼し，複数の分野に跨る課題の場合は，該当するすべての分野の委員に依頼し，1次審査を行った。その後，各課題の平均点数を算出した上で，最終選考を行い，5件を採択(最終審査)した(91～92頁；分野毎の諾否ではないため，授賞は選択分野に影響されない旨記載している)。

2. 令和6年度臨床研究助成「日本外科学会臨床研究助成」，及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞式，及び成果発表について

令和6年度「日本外科学会臨床研究助成」，及び「若手外科医のための臨床研究助成」の授賞者の授賞式は，第125回定期学術集会の3日目にあたる令和7年4月12日(土)に行われる各種表彰式に組み込む形で執り行う。

なお，これまで授賞式のセッションに過去の臨床研究助成授賞者の成果発表も組み込んでいたが，第125回定期学術集会では時間の関係から，成果発表のみのセッションを設けて行うこととした。

3. 臨床研究セミナー(eラーニング)について

従来の参集形式から，eラーニング形式に切り替わったことに伴い，毎年のように企画を立てる必要はなくなったことから，「観察研究の統計」と「臨床試験の統計」のテーマをセットにしたコンテンツを，5年に1回の頻度で制作して，差し替えることとしている。

4. NCDデータを利用した複数領域にまたがる臨床研究について

NCDデータを利用した臨床研究は，当該学会が所管するデータ以外の領域にまたがる研究を行おうとする場合には，個別に該当する学会の承諾を得た上で，主たる学会からNCDに申請する必要がある，手続きに煩雑な点がある。そこで，複数領域にまたがるNCDデータの利用につきまして，円滑な協議に資するため，学会間の交渉機関として，「NCD臨床研究推進委員会」(各領域の学会とNCDの代表者が加わった拡大的な組織)が設置されている。

1) 複数領域の定義について

「複数領域にまたがる」ことの定義の認識に齟齬があったことから，学会単位ではなく，あくまでもデータベース上の領域の枠組みを基準として考え，各領域枠のデータベースにまたがった場合が，「複数領域にまたがる」と定義した。

NCDデータにおける「領域の枠組み」について



領域の枠組みにおける注釈 (データベースの分類)

- ・研究テーマが、左記の複数の領域枠にまたがる場合、「外科横断研究」として扱う。
- ・研究計画書に学会単位ではなく、使用予定のデータベースを記載いただきたい。
- ・外科学会所轄の「外科共通」は、各データベースに既に含まれる項目である。
- ・左記の同一の領域内であっても、データベースの所轄学会が異なる場合があるため、追加の許諾を必要とする場合がある。

2) NCD データベースの所轄について

前述 1) の領域の枠組みを基準に考えた場合のデータベースの所轄を確認すべく、あらかじめ「NCD 臨床研究推進委員会」参加学会に対して、当該領域の関連学会などと協議の場を設けられているか否かについて照会を行った。日本消化器外科学会の「消化器外科データベース関連学会協議会」と同様のスキームを想定した照会であったが、その回答を基に NCD データベースの取次先の窓口を示した図が、以下である。この図に沿って改めて確認を行った結果、特に認識に相違は無かったことから、今後はこの図を基に、「NCD 臨床研究推進委員会」から各領域の取次先窓口にてデータベースの利用許諾についての連絡を取ることとした。

NCDデータベースの「所轄学会」について



3) 令和6年度の申請研究課題について

令和6年度も募集したところ、日本小児外科学会より「先天性胆道拡張症における成人および小児症例の胆道再建法の検討」の1件と、日本心臓血管外科学会より「大動脈壁浸潤を伴う肺・縦隔腫瘍における、胸部ステントグラフトを用いた合併切除の成績及び有用性の検討」の1件の申請がなされ、各領域のNCDデータベースの所轄学会にデータ利用等の許諾の検討、審査を依頼中である。

12. 利益相反委員会

委員長 尾 藤 祐 子

1. 委員会について

令和5年度までは、臨床研究推進委員会の一部として活動していたが、学会活動における利益相反の重要性がますます高まっていることを鑑み、今期からは独立して活動することとなった。

その活動は、「外科研究の利益相反に関する指針」に基づき、役員等から提出された利益相反自己申告書の管理や、その利益相反自己申告書に対して、疑義もしくは社会的・法的問題が生じた場合の対応等を目的としている。

2. 役員等の利益相反自己申告書について

当該の対象者には、「役員等の利益相反自己申告書」を提出してもらい、本学会事務所で厳重に管理している。なお、現在の本学会の「役員などの利益相反自己申告書」はWeb回答フォームを介して回収しているが、利便性の向上などのため、他学会に倣って専用システムを導入する方針を採ることとし、臨床研究法の改正に伴う国による電子化の動きも注視しながら、具体的に検討中である。

3. 「外科研究の利益相反に関する指針」について

日本医学会の「COI管理ガイドライン」や「診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」などの一部改定に合わせて、本学会の「外科研究の利益相反に関する指針」も改訂することが理事会から諮問されたので、本学会では診療ガイドラインを作成していないことも踏まえて検討を行った。なお、この検討の参考資料として、他学会におけるCOIの自己申告の管理・審査などについて、「専門医制度の基本領域学会」(17学会)と「外科領域サブスペシャルティ学会」(8学会)、および「その他」として日本肺癌学会と、日本癌治療学会の2学会の計27学会に対して、アンケート調査を実施した。

検討の結果、診療ガイドラインを作成していない学会は厳格な基準を設ける必要は無いため、開示(公開)を前提に自己申告いただき、問題になりそうな申告書については委員長または副委員長に都度判断を仰ぐなど、必ず誰かが目を通す体制を整えることで問題ないのではとの意見でまとまった。なお、継続的に他学会の意見も参考の上、本会としての対応を継続して検討していくこととした。

4. 英文誌(Surgery Today)のCOI Formについて

本会の機関誌であるSurgery Today誌、Surgical Case Reports誌、日本外科学会雑誌の3誌では、投稿にあたってCOI Formの提出を義務付けている。その中で、Surgery Today誌を所管している英文誌編集委員会からSurgery Today誌の投稿にあたって、著者・共著者を含めて手書きで記入したうえでスキヤニング(PDF化)してパソコンに取り込み投稿時に提出いただくというフローを、投稿後に出版社からCOIの提出依頼がメールで届くようなフローにすることにより、投稿時の著者の手間も減り、投稿意欲が

高まって投稿数も増えるのではないかというような諮問があった。過去の記録を確認したところ、令和3年度にも同様の諮問があったことから、改めて両委員会当時の議事録から抜粋した資料や、日本医学学会での手続きも参考にしながら検討した。

検討の結果、前回同様に COI Form の提出の省略は認められないが、法律的にも電子メール等で本人確認が行えれば署名の削除は問題ないため、現状の運用の簡便化には異議ないとして、現在使用されている COI Form の“Signature（署名欄）”を削除し、電子メールで本人確認を行うなど、具体的な対応策については英文誌編集委員会で検討してもらう旨を回答することとした。

さらに、COI Form の取り纏め方について、① COI Form は論文掲載時まで集めることとし、投稿時は論文内に COI について記載すれば良いこと、② COI Form は出版社が取り纏めて、責任著者は確認するだけで良いようにすること、の2点の方向性も回答に付け加えておくこととした。

13. 国際委員会

委員長 湊 谷 謙 司

1. 外国人名誉会員について

新外国人名誉会員として、第1号議案で報告のあった Fabrizio Michelassi 先生、Ho-Seong Han 先生を推薦した。

推薦にあたっては、本会の外国人名誉会員としてのクオリティ保持を目的として、令和4（2022）年度より追加された推薦規定「本会への貢献度」も考慮している。

2. 若手外科医の学術交流制度（旅費給付）について

American College of Surgeons（ACS）と German Society of Surgery（GSS）とは、それぞれの学術集会にお互いの学会から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流を行っている。

【ACS】

第110回 ACS 出席（令和6年）本会から ACS へ参加予定

→ 庄司 佳晃 正会員（東海大学医学部外科学系消化器外科学）

第125回（令和7年）ACS から本会定期学術集会へ参加予定

→ Ajay V. Maker（Univ of California San Francisco Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center Chief of Surgical Oncology, UCSF Maurice Galante Distinguished Professor of Surgery）

第111回 ACS 出席（令和7年）本会から ACS へ参加予定

→ 山本 健人 正会員（田附興風会医学研究所北野病院）

第126回（令和8年）ACS から本会定期学術集会へ参加予定

→ 未定

※第111回 ACS 出席者まで決定しているため、来年（第111回）の ACS 参加者を今年の9月～11月に募集予定である。選考においては発表予定の抄録と業績を中心に評価する。

【GSS】

本会から GSS へ参加予定

→真智 涼介 正会員（金沢大学消化管外科）

GSS から本会定期学術集会へ参加予定

→未定

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大や会期重複などにより，令和 2（2020）年度以降，交流を中断していたが，令和 6（2024）年度から再開している。

※来年度の GSS 出席者は，今年の 5 月～7 月に募集予定である．選考においては発表予定の抄録と業績を中心に評価する。

3. 各国際学会代表講演について

学術集会で各学会の代表者の講演を行っている．第 125 回では，以下の 6 名に講演いただくこととなった。

【American College of Surgeons（ACS）】Patricia L. Turner 先生

【German Society of Surgery（GSS）】Udo Rolle 先生

【Society of University Surgeons（SUS）】Thomas K. Varghese Jr. 先生

【College of Surgeons of East, Central and Southern Africa（COSECSA）】Laston Chikoya 先生

【The Association of Surgeons of India（ASI）】Pravin Suryawanshi 先生

また，上記の各国に加え今回第 125 回定期学術集会より以下の学会とも交流を持つこととなり，来日のうえ講演いただくこととなった。

【Korean Surgical Society（KSS）】Woo Yong Lee 先生

【Taiwan Surgical Association（TSA）】Chien-Sung Tsai 先生

【Italian Society of Surgery（Societa' Italiana di Chirurgia）（SIC）】Massimo Carlini 先生・Alessandro Ferrero 先生

4. Academic Surgical Congress（ASC）との交流について

Society of University Surgeons（SUS）と Association for Academic Surgery（AAS）の合同年次総会である Academic Surgical Congress（ASC）では，本会から毎年約 10 演題が受け入れられており，当会会員の ASC 学術集会への参加費は本会で負担することとしている。

令和 7 年 2 月 11 日～13 日に開催された第 20 回 ASC には，本委員会による審査で選ばれた以下の 6 名が本会代表演者として発表した。また，本会の代表者として理事長と委員長が参加した。

湯川 恭平 正会員（九州大学消化器・総合外科）

坂下 勝哉 正会員（静岡県立静岡がんセンター 肝・胆・脾外科）

渡邊 活 正会員（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

海老沼翔太 正会員（京都大学大学院医学研究科医療経済学）

北本 真悠 正会員（横須賀共済病院外科）

矢野 圭輔 正会員（鹿児島大学小児外科学分野）

※次回の第 21 回 ASC 出席者は，今年の 5～7 月を募集期間とする予定である。

5. ドイツ外科学会との交流について

ドイツ外科学会とはお互いの学術集会において，ジョイントセッションを開催している。今年は以下のプログラムを開催する。

【第142回ドイツ外科学会・日独合同セッション（於ミュンヘン）】

日 時：令和7（2025）年3月27日（木）11：15～12：45

テーマ：小児外科

司会：Prof. Thomas Schmitz-Rixen, Prof. Marie Uecker, 荒 桃子（北海道大学消化器外科学教室 I）

- 1) European Training Requirements for Pediatric Surgery—Chances and Limitations
Speaker from Germany：Prof. Udo Rolle
- 2) Centralization of Pediatric Hepatobiliary Surgery and Liver Transplantation in Europe
Speaker from Germany：Prof. Claus Petersen
- 3) Japanese training system and requirements for Pediatric Surgery
Speaker from Japan：田尻 達郎（九州大学小児外科学分野）
- 4) Striving for the Centralization of Pediatric Hepatobiliary Surgery in Japan: Enhancing Outcomes through Specialized Care
Speaker from Japan：内田 広夫（名古屋大学小児外科学）

【8th JSS/GSS Topic Conference】

日 時：令和7（2025）年4月10日（木）13：10～15：10

テーマ：Liver Transplantation

司会：GSS1 名予定, 吉住 朋晴（九州大学消化器・総合外科）

- 1) Centralisation of pediatric hepatobiliary surgery in Germany
Speaker from Germany：Prof. Udo Rolle
- 2) Validation of the PANAMA-Score for Survival Benefit of Adjuvant Therapy in Patients with Resected Pancreatic Cancer After Neoadjuvant FOLFIRINOX
Speaker from Germany：Thomas Hank
- 3) The challenging health care changes in Germany
Speaker from Germany：Prof. Thomas Schmitz-Rixen
- 4) ABOi- and non-ABOi related antibody mediated rejection “How far we have come?”
Speaker from Japan：池上 徹（東京慈恵会医科大学肝胆膵外科）
- 5) Transplant oncology：a paradigm shift in the management of hepatobiliary Malignancies
Speaker from Japan：日比 泰造（熊本大学小児外科学・移植外科学分野）

6. 英国外科学会 International Surgical Training Programme (ISTP) について

ISTPは英国のRoyal College of Surgeonが運営しており、英国以外の若手外科医師が英国各地の病院の外科、外傷外科、救急を含む様々な診療科で臨床研修が出来る制度である。

これまで、以下の3名がIELTSの基準をクリアし、研修を行っている。

第1期生：田村 亮 正会員（高島市民病院外科；小児外科）

→ New Castle 大学（The Great North Children Hospital）修了

第2期生：佐藤 力弥 正会員（虎の門病院消化器外科）

→ Colchester General Hospital 修了

第3期生：遠藤 睦子 正会員（Radboud University Medical Center Surgical Oncology）

→ Royal London Hospital にて2月より研修開始中

IELTS の基準をクリアしているものの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により現在も研修先の選考手続きに遅延が生じている。そのため、2023 年 6 月に委員長が再度渡英のうえ、RCS の ISTP 担当理事へ手続きの進展を強く要望し、2024 年も何らかの進展をいただくよう継続的に働きかけている。本会の選考を通過した候補者は以下の 3 名である。

平岩 伸彦 正会員（東京ベイ浦安市川医療センター）

関岡 明憲 正会員（大阪府済生会野江病院）

北田 智弘 正会員（大阪市立大学小児外科）

※上記の他に第 4 期生として 2 名が、IELTS のクリアを目指している。

※上記候補者の進捗状況に鑑み、現在本会での募集は停止している。

7. 南アフリカとインドとの交流について

将来計画委員会「国際化推進」ワーキンググループにおいて、南アフリカとインドを中心とした国際交流促進が検討され、アフリカの COSECSA とインドの ASI の会長を本会定期学術集会に招待することを開始している。

また、COSECSA と ASI については、各学会から選出された若手外科医（各 3 名）に本会がトラベルグラント（COSECSA：4,000 ドル、ASI：2,000 ドル）を支給し発表の機会を提供している。また、発展途上国への貢献事業として日本の施設見学のサポートも行っており、各受賞者が希望する施設を会期前後に見学予定である。

第 125 回の受賞者は、以下の 6 名である。

【COSECSA】

Blessing Ngoin. Ngam 先生 Joseph Mkandawire 先生 Maurice Bruno Muriuki Mugao 先生

【ASI】

Mohib ul Farooq Jan 先生 Aayush Bhadani 先生 Hrishikesh M S 先生

8. 海外学会との交流について

上記にて報告している韓国外科学会（KSS）、台湾外科学会（TSA）、イタリア外科学会（SIC）とは今回の第 125 回定期学術集会より新たに関係を構築する予定である。他各国との招聘条件に乖離することのないように交渉を進める予定である。